

村山地方町村議会議長会行政視察

島根県美郷町・飯南町を視察 (7/3~5)

平成の大合併で14年程前に新しく出来た町である。面積は大石田の3倍以上あるものの人口は4000人台という中国山地が屹立する山間の町で、少子高齢化や人口減少は大きな問題となっている。しかし、二つの町と併りわけ飯南町は、I・Uターンの転入者が多く、平成28年度は53名を数え人口の1%になるという。内訳を見るとIターンが40人、Uターンが13人。これで分かるようにIターン(地縁のない)者が極めて多いのである。町に何か特別な魅力があるに違いない。

特筆すべき点を挙げてみると、
 ①町内の県立飯南高校生徒186名のうち21名は県外からの入学者で、寮が完備されている。
 ②農業を手伝い、賃金をもらいながら1カ月程度暮らしてみよう(ワーキングホリデー制度)
 ③25年間賃貸した後に自分の持ち家になる「定住賃貸住宅(セミオーダー住宅制度)」
 特に③は、住宅ローンの問題や利子のことを考えれば、転入者にとっては大変有利な制度に違いない。

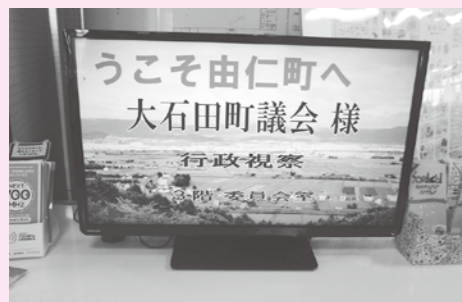
もちろん、近くに働く場所がなければならぬことではあるが、一考に値する制度だと思った。(副議長 小玉勇)

大石田町議会議員行政視察

北海道東川町・奈井江町・由仁町に学ぶ (7/10~12)

ふるさと納税者を町の事業へ投資する株主に見立てた事業展開や、写真甲子園を開催して写真の町として国内外に売り出し、交流人口を拡大している事業、日本語学校を設立し、大使館を通じてアジア各国から留学生を募り、半年後には300名の学生を住民登録し、一時7000人台に減少した人口を8000人台まで戻した事業などを学んだ。

住宅支援施策として新築・中古住宅購入・家賃助成を行っている。新築には300万円、中古の購入に200万円、民間住宅家賃助成には最大月1万円の助成を5年間行っている。昭和47年に廃校を活用した温泉施設を開業し、指定管理者制度により管



町おこし協力隊の方が町に定住し、NPO法人移住・交流支援センターを立ち上げ、交流人口の拡大や空き家情報の発信などの事業を行っている。

7月10日から12日にかけて3日間の研修であったが、各町とも、町長はじめ副町長、議長らから丁寧に対応していただいた。当町にも取り入れた内容、学ぶべきことが多い3日間であった。(記 関・遠藤)

厚生産建常任委員会

新亀井田橋の問題を視察 (5/23)



4月12日に開催した川前公民館での対話集会において、亀井田橋の架け替え工事に関する意見が出されました。それに基づき、5月23日、厚生産建常任委員会において工事を施工した県関係者及び町建設課、地区民等から参加いただき現地確認と役場での話し合いを行った結果、次の事項を確認しました。

① 現在、不便をきたしている側道の水溜りについては、仮設水路の設置を早急に検討する。
 ② 橋上の歩道除雪については、マイ

ロードサポート事業で除雪できないか検討したい。
 ③ 橋上の街路灯設置については、フットライトのような、簡易式の照明を取り付けられないか検討したい。
 ④ 古い橋の撤去工事は、平成33年までの予定でその後に側道の工事を実施したい。

以上が、現地調査において地区民から出された意見を受けて県関係者と協議した結果です。関係者の皆さんご協力ありがとうございました。(厚生産建常任委員長 齋藤公一)



山形県町村議会広報研修会

課外授業も含めた広報研修 (5/31)



今年も山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)にて県の広報研修会が行われました。今回の講師は、全国で活躍されている議会広報サポーターの芳野政明氏。先生は、当町出身の長太郎不動産浅沼会長とご友人で、我々(広報委員)もそのご縁で懇意にさせて頂いていただいております。「住民に読まれ、伝わる」議会広報編集のポイントとして講演いただいた後、議会だよりをクリニックしていただきました。結果は「優秀」との事でした。

研修終了後、先生を大石田に招き、全国で表彰されるには何が必要かを熱く話し合いました。またご来町いただくことを約束し、決意を新たにす一日となりました。(広報常任委員長 村形昌一)